

意見交換の概要 (平成 29 年 8 月 9 日(水)・松山市青少年センター)

1. 愛媛マラソンの人気の要因について

愛媛マラソンは知事と市長も毎年一緒に参加されているということで、全国的にも素晴らしい大会だと思う。ランナーに非常に人気の高い大会であるが、愛媛マラソンの人気の主な要因についてどのようにお考えか。

【知事】

愛媛マラソンというのは実はかなり長い歴史を持っていて、五十何回あるんですね。ところが昔は数年前までは、砥部の総合運動公園をスタートにして、しかも4時間以内に帰ってこないとい失格になってたんです。まあほんとに速い一部のアスリートクラスの人しか出れない大会だったんですね。どんどんどんどん参加者が減って最終最後のときには、850人ぐらいの大会になってたんです。そのとき僕は松山の市長の仕事をさせてもらってたんですけども、陸上関係者の中にはコースを変えたいと相談がきました。それは市民マラソンにするってということなので、いいことだなと思ったんで協力することにしたんです。ところがね、新しいことをやるというときにはやっぱり反対する人もたくさんいますよね。当時はどんなところがそりゃ難しいって言ったかという、まず、あれをやるとき電車とかバス、車も制限しちゃいますから、鉄道会社やバス会社が、止めたら売り上げが落ちちゃう。商店街、人が来なくなって売り上げが落ちちゃうから反対。ガソリンスタンド業界、交通規制されると車がガソリン入れることができないから反対。トラック業界、交通規制すると、スムーズに物が運べなくなるから反対。それからゴルフ場協会、ゴルフ場に人が来なくなるから反対。あと警察、警備が大変だから反対。みんな反対だったのね。それを1つ1つ説得して、この大会やりましょうよ。6時間にしたら、4時間じゃ誰も来ないけど6時間までOKだということにしたら、一般の人も参加できる市民マラソン大会になるんです。いうことを散々言いました。最終的には警察もOKしてくれたんですけども、ここまで無理を言ったんだから、当時の市長、市長責任取って走れって言われて、それで走らざるを得なくなって走ったのが第1回目、今から7年前のことになります。そのときは実は、どれぐらい、前年が850人ぐらいだったんで、どれぐらい参加してくれるか分からないね、ということで5千人定員にした。案の定、当日、第1回大会は3,500しか来なかったんです。定員割れだったんです。ところがそれをテレビ局が流す。楽しそうな雰囲気が伝わる。翌年から大人気になって、今では定員5千が1万になって、インターネットの公募はもう開始10分か15分で埋まっちゃう大人気大会へと育っていきました。

じゃあその要因は何なのかと言うと、コースの良さはあります。あそこの堀之内から出て県庁前スタート地点にして、ぐるっと北条方面行きますから、瀬戸内の海を見ながら、折り返してって風景の良さ。でも何ととっても最大の人気の要因はおもてなしですね。走ったら分かります。それぞれの地域ごと応援の人はいつもずっと6時間、最後まで頑張ってエールを送ってくれる。と同時に集落ごとに、今年はどうなおもてなしをうちはやろうかっていうことで祭りのように皆さん計画してるのね。だから走っていると、ある場所行くと例えば獅子舞で励ましてくれたり、ある場所行くと大学のチアガールが励ましてくれたり、ある場所行くとお神輿が出てたり、食べ物もイチゴが出てくるわ、ミカンが出てくるわ、坊っちゃんだんごが出てくるわ、タルトは出てくるわ、じゃこ天は出てくるわ、それぞれの地域が今年のおもてなしっていろんな工夫をして待っていてくれるんですね。だから、その県民力っていうかね、そういうおもてなしの力というのが、ランナーに伝わって、ランネットっていうネットがあって、全国には1,600ぐらいの市民マラソンがあるんですけども、2年連続で1,600の中で愛媛マラソンは出場した方々の人気1位になって

ますね。いかにそのおもてなし体制の充実が働いてるかっていうのはその数字でも明らかなんだけど、ただ最近はやっと違ってきたのは、他の地域の人たちがみんな愛媛マラソン見に来る。愛媛マラソンでああいうことやってたって同じことやり始めた。だから結構拮抗し始めてるんだけど、でもその魅力があればこそ、かつてシドニーオリンピックの金メダリスト、来年はちょっと平昌オリンピックの関係で来れないんだけど、高橋尚子さんが毎年来てくれる唯一の大会になっているということになりました。その他にもいろんなゲストランナーが盛り上げてくれていて、これからもずっと続いていくと思います。あなたもぜひチャレンジしてみてください。とっても楽しい、ゴールしたときの達成感と感動というのは何にも替え難い大きなものがあると思います。

2. キウイフルーツなど愛媛の農産物のPRについて

県外の人に愛媛のイメージを聞くと、ほとんどの人がミカンと答えるが、実際ここ13年間日本一になれない。またそれ以外のことを聞くとほとんど答えが返ってこない。愛媛にはまだ魅力のある農産物がたくさんあるのに、県外の人ほとんどそのことを知らない。もっとその点についてPRしてはどうか。

例えば、キウイフルーツは全国生産量トップであるが、ほとんど愛媛というイメージがない。また愛媛県民もそのことをあまり知らない。だからまず、学校給食や飲食店でこれを提供し、愛媛県の人に知ってもらい、それから今人気のある飲むミカンゼリーのキウイ版などの加工品をつくり、愛媛ブランドとしてアピールするのはどうか。

【知事】

まずミカンということに関して言うと、これはもうほんとに全国的にも知られていると思います。ただミカンもいろんな種類があって、1番ポピュラーなのが、こたつの上に乗っかっているミカン、「温州みかん」というブランド、これがまあ1番代表的な「ミカン」ですね。この生産量だけでいうと、和歌山県が1位で愛媛県は2位になります。でも愛媛県と和歌山県の決定的な違いがあるんですね。それは和歌山県は、ほとんど「温州みかん」をつくってます。もちろん他にもある程度つくってるんだけど、ほとんど「温州みかん」。愛媛県は「温州みかん」は全国かんきつの中で「温州みかん」なんですけど5%ちょっとなんです。いろんな種類をつくってますね。我々が目指してきたのは、多品種で1年中供給できる体制をつくるっていう、これにこだわって商品開発をしていますね。例えば、今の季節っていうのは1番品薄になっていると思うんだけど、今出てくるのはハウスもの、「ハウスみかん」が中心です。9月ぐらいになると「極早生みかん」あの青いミカン。その後、「早生みかん」になり、「温州みかん」。12月になると中晩かん。晩かんでのは遅い、昼晩の晩、中は真ん中の中、の中晩かん類というこの代表品種が「いよかん」になります。ただし、「いよかん」もだいぶ古い品種になるからどんどん開発が進んでいて、今1番高値が付くのが「紅まどんな」で、これは東京持っていくと、1個、たった1個で1,800円ぐらいの、飛ぶように売られています。中晩かんはすごい品数が豊富で、「紅まどんな」が出てくると、翌年になって、1月になって「いよかん」が出てきて、そのあと「甘平」とか「せとか」とか「清見」とか「カラマンダリン」とかこういう品種が全部出てきます。そのあとになると、和製グレープフルーツと言われている、「河内晩柑」という品種が出てきます。続いて8月のハウスみかんに、要は1年中、全く味の異なる多彩な品種をつくり続けているのが愛媛県で、これを全部トータルパッケージにするとかんきつというカテゴリーになります。かんきつ全体になると愛媛県は1位ということをやっと続けている県なんです。ただミカン、「温州みかん」単体でいうと2位だけどもかんきつでは全国1位ということをやっと知ってもらいたいなと思います。かんきつ王国なんですね。

と同時にキウイフルーツも全国の約 1/4 ぐらいつくってるのかな。愛媛県産っていうのは、非常に生産量が 31 年全国 1 位が続いてるんだけど、実はこれあまり知られてないのに 1 つ理由があるのが、ニュージーランドにゼスプリという世界中のキウイのマーケットが会社があります。愛媛県はそこと全面提携していて、ゼスプリ社が日本国内でつくるキウイの 8 割が愛媛産なんですけど、これはいい値段でとってくれるんだけど、ゼスプリブランドで売られちゃうんでなかなか愛媛というのは前面に出てこないんですね。ただそこへいろいろと今仕掛けをしていて、例えば去年はみんなも食べたことあるマクドナルドの本社と交渉して、マックシェイクに愛媛産甘夏みかんを採用してもらいました。これが非常に好評で、マックのカップにみきゃんを印刷してくれて、全国発売したんですね。非常に好評だったんで、今年は何にしようかと言ったら、今年もキウイフルーツを採用してくれました。今年 4 月、5 月、飲んだ人いる？ああいらないだ。期間限定で、マックで S が 120 円、M が 200 円だったのかな。キウイフルーツのマックシェイクが全国発売されたんです。あれは北海道から沖縄まで全国発売。そこでちゃんと愛媛産っていうのを入れて出したんですね。ただし今回はあまりにもおいしくて、売れ行きが甘夏みかん以上で、店によっては 2 週間ぐらいで売り切れちゃった。このおいしさっていうのは、向こうもよく分かって今後のビジネスにもつながっていくというふうに思います。

ただミカンというイメージがあるっていうのは逆に今すごく強みだと思うんですね。だから物を売る、あるいは物を広げていくにはまんべんなくあれもこれもあれもこれも PR するっていう手法よりも、強いものを徹底的に強くするというふうなことで、効果を上げて、その裾野で底上げを図っていくのがこれ将来の多分ビジネス、マーケティングの基礎基本になるんです。その他圧倒的にここが弱いからここはこうしようここはこうしようって分散しちゃって情報が発信しなかなかできなくなっちゃって、ミカンってのをせっかく知られているんだから、そこを切り口にして、そこを押し出すことで他も底上げっていう方向へ持っていったほうが広がり早いというふうに思います。ただ参考までに、結構いい視点で触れてたのに愛媛県民が知らない。愛媛県民が愛媛県のふるさとの良さを知らない。これはもう間違いない。例えば日本一っていうとかんきつもそうだし、キウイもそうだけど、魚類養殖業、魚だね。これも生産量 1 位ですね。それから今 2 位になっちゃったけど数年前までは木材のヒノキ。高級木材ヒノキの生産量も愛媛県 1 位だったし、真珠、真珠の生産量は全国で 35% のシェアを愛媛県が持っていてこれも 1 位。いろんなものがあるんですね。それをぜひ皆さん、知ってもらって自分の中に吸収して外に向かって 1 人 1 人が PR してくれるようになると、さらに知名度が上がるんですけど、ただ、今、知名度を上げるためには世の中は移り変わってきていて、例えばインターネット、ブログあるいは SNS、そうですね、あとはユーチューブを含めたですね、いろんな宣伝媒体をうまく駆使しないと、広がりってのはなかなか出てこないんで、その辺は今、県のほうでも若手職員が中心になっていろんな戦略を練っているところです。

3. 花園町通りを活用した県内向けの県の魅力発信イベントについて

私は昨年友達と一緒に課題研究をしてその際、愛媛に住んでいても意外と愛媛のことを知らない人が多いと感じた。昨年、南予博が開催されたりして、愛媛の魅力を県外に発信できていると思うが、まずは、愛媛の人に向けた愛媛を盛り上げるようなイベントをぜひ開催していただきたいと思う。また、その際は 9 月 23 日にオープンする花園町通りを活用して地元の高校生を巻き込んでやってもらいたいと思う。

【知事】

何をやるの？どんなイベント。

(参加者)

先ほど言っていた愛媛の人が知らない愛媛の魅力を発信するっていうのももちろんなんですけど、例えば南予と東予を合体させたような、南予の人が知らないような東予の魅力を伝えたり、その逆を伝えたり、何か南予中予東予全部を合体させたようなイベントができれば素晴らしいなと思います。

【知事】

あのぜひ1回ね、ちょっと花園通りの近くにはなるんだけど、平成23年から、愛媛県と松山市がバラバラにやってたお祭りがあるんだけど産業まつり、今堀之内公園を舞台にして、一緒にやるようにしたんですよ。松山の堀之内公園を舞台にしながら、東予の食や産業のブースをダアーっと並べてる、それから、南予の食を中心としたブースがダアーっと並んでる。2日間で10万人以上来るイベントに成長してきました。これね、ぜひ1回行ってみてください。すごーいよ。行けば、ああこんなのあるんだっていうのが一目瞭然で分かるようなイベントに育っていて、そういったこと、花園通り近いから、何かコラボしたらどうです、せっかく10万人来る、去年はちなみにゆるキャラグランプリ、全国大会したり、まあいろんなことをやってるんで、花園通りという地域に目を付けるのであれば、地理的に言えば堀之内公園とのコラボレーションっていうのを考えた仕掛けが1番いいのかなという気がします。花園通りだけだとなかなかこうインパクトがないので、堀之内公園結構大きなイベントやる時ありますから、そこで常にどう花園を動線として生かしていくかっていう発想で進めて、地域の人を巻き込んでいくか面白いアイデアが出てくるんじゃないかなと今のお話を聞いて思いました。

ちなみに去年は南予博をやって、その前は島しょ部というのにスポットライトを当てた「しまのわ2014」これはサイクリングの世界大会やったんだけど、2019年はですね、これもまた知られてないんだけど、東予と山。山ガールとか、山のトレッキングで一部でこう人気になってるんだけど、あそこすごい山。

まずは石鎚山登ったことある人。1、2、3、4人、そう。あの石鎚山行ったときに鎖で登った人・・・鎖、あれこそが、あそこの魅力なのね。石鎚山どういう山かって言うと、日本で1番高い山は富士山ですね。西日本で1番高い山はもうそれ石鎚山です。西日本で1番高い山が石鎚山。もうそれだけでもインパクトがあるんです。西日本最高峰が石鎚であり、しかも全国でこれぐらい太い鎖が絶壁とまでいかないけど、急傾斜の所ダアーと落ちるのね、4本。それをよじ登って行くという体験ができる登山道どこにある？ないです。しかも、ある意味では日帰りで西日本最高峰の登山を経験し、家に帰ってこれるという恵まれた至近距離。もっと言えば皆さんこれからだけでも、石鎚山も冬になると、スキー場がオープンします。愛媛県内にはスキー場が3カ所あります。小田深山、久万高原、石鎚山。中でもこの石鎚山のスキー場っていうのは、もし車を持っているんだったら車で石鎚ロープウェイまで、場合によってはチェーンを巻かずにスノータイヤはかずに普通のタイヤで行けます。そこからロープウェイに乗ったら、到達した瞬間、白銀の世界なんですね。例えば松山だったら8時に家を出たら10時には白銀の世界に立ってます。滑るだけ滑って、お昼にカレー、寒いところで食べるカレーうまいんだよね。カレー食べて、午後2時間ぐらい滑って、ロープウェイで下りてくれば家には5時ぐらいには帰ってこれるんですよ。こんな身近な感覚で、スキー場で楽しめる場所は全国広しといえどもないです。そういう石鎚山。

そしてその隣には新居浜市がありますが、この山は昔、別子銅山。別子銅山に行ったことのある人。1人いる、あの東平行った？覚えてない。

(参加者)

あんまり覚えてないです。

【知事】

今見違えるような空間になって、この別子銅山っていうのは何の言われかという、徳川時代に徳川幕府から大阪にいた商人、住友家に開発の許可が下りました。300年以上前に住友家が銅山の開発を始めました。その結果、そこが日本の有数の銅山の産出地となったんですね。そのときに江戸時代から明治時代に時代が移り変わって行きます。明治時代に入ると、近代化が進みます。事業を進めていく土台が株式会社だったんです。会社というものが生まれたんですね。そのときに誕生して銅山掘るためにつくられた会社が住友金属鉱山という会社になります。銅を掘ると亜硫酸ガスが発生する、これを処理するためにつくられた会社が住友化学という会社です。銅が出てくるとそれを運ばなきゃいけないんですね、それを運ぶためにつくられた会社が住友重機械工業という会社なんです。百数十年前にばっさばっさ銅山を掘ったら木がなくなっちゃいました。山が丸裸になっちゃったんです。これは大変だと。百数十年前に環境問題を考えて植林事業を始めました。この植林事業を始めるためにつくられた会社が住友林業という会社なんです。全部世界に羽ばたいている会社、全部愛媛県にあります。この銅山の歴史が刻まれたのがこの新居浜にある山なんですね。行くところです、昔は山の中に5万人ぐらい住んでたんですよ。掘り終わると5万人が一斉に移動するんですよ。だから何百人入る小学校、3千人入る文化ホールも昔はあった。大きな病院があった。山の中にそんな施設がいっぱいあったんです。もう今壊されてね、土台だけ残ってます。昔はこんな建物がありましたよ。こんな病院がありましたよ。こんなプールがありましたよ。こんな娯楽劇場、何て言うのかな市民ホールがありましたよ。写真が額にずっと残してくれてるんですね。登山をやりながら、明治時代の芽生えた住友の繁栄の旅ができるのはあの登山道なんですね。その外にいくと四国中央市、ツツジのきれいな翠波高原に至るまで、ものすごいきれいな山脈が連なっています。

こういったことをですね、実は2019年にその3市で新しいイベントをやろうという計画が持ち上がってまして、こんなことをやりながらですね、東予には東予の、中予には中予の、南予には南予のお互いが知ることでコラボができる体制をつくっていききたいなと思ってます。

4. 愛媛の畜産農家の売上対策について

私は高校で畜産を学んでいるが、豚1頭当たりの売値が約3万円ととても安く、そこから餌代、電気代などで1頭当たり2万5千円ほどかかるので、実質5千円ほどの売上げになってしまう。私たちは学校での実習なので何とかなっているが、実際の各農家の方々はもっと大変な思いをしていると思う。第1次産業に力を入れていると愛媛県のホームページで拝見したが、何か対策があれば教えていただきたい。

【知事】

やり方によってはですね。1つのものを売るときのアプローチとしては2つあって、1つは同じものをたくさんつくって、量によってコストを下げる。薄利多売。利益は少ないけどたくさん売って収入。もう1つは量は少ないけれど他にない徹底的な付加価値を付けた商品を開発して、商標だけでも高く売って利益を得る。どっちかしかないんです。今、豚、両方のケースがあると思います。

1つは実は民間で成功してることなんだけど、南予地域を中心に、民間企業が10年前から素晴らしい取組みをしてましてね。最初に投資したんだけど、最高の環境で、ユニクロ商法、要は低コストである程度のリスクで低コストでともかく市場を押しやいていくという手法をやったんですけども、そこと野菜を組み合わせ、今毎年30人ぐらい新入社員雇う急成長企業になってます。これは畜産と野菜で成り立ってます。ただしこの畜産はユニクロ商法。安い、できるだけ安価にコスト下げて、安全にたくさん売る。

我々が支援しているのは品質のいい物と、愛媛県にはいろいろな研究所があります。県庁に。その中で畜産研究センターもあるんですけども、ここでは豚について言えば「愛媛甘とろ豚」というのを5年かかって開発しました。この「愛媛甘とろ豚」っていうのはもう1つ愛媛県が生産量1位、はだか麦、生産量1位のはだか麦を餌にして交配に交配を重ねてたどり着いた品種なんです。分析をするとオレイン酸という成分が多く含まれていることが判明しました。このオレイン酸が含まれていると、とろける温度が変わってきます。だいたい「愛媛甘とろ豚」の場合は36度でとろっとしている、ということは口の中の温度でとろけるんで、他の豚とは全く食感も異なる豚に仕上がります。脂が脂っぽくないです。これはいけるというふうなことで、今売り込みをかけて、行ったところは全部買ってくれます。例えば数年前、大阪に売り込みに行ったときが、阪急百貨店、7つ百貨店を廻ってみると、食品関係の名所なんですけど、ともかく「愛媛甘とろ豚」としゃぶしゃぶでさっと湯通しレタスにくるんで愛媛県から持ってった鬼北町産のポン酢で食べてみてって言ったら、なんじゃこりゃあってなって、今、阪急百貨店の豚肉コーナーは、それまでは某県の何たら豚っていうのが愛媛甘とろ豚になってます。まだ生産量が追いつかない状態でこれからどうやって、今8千頭ぐらいかな、早く1万頭ぐらいまでいきたいと思ってますけど、何で僕がどんどん増やしたいかって言うと、固定価格なんです。通常豚はキロだいたい今、どうだろう、1頭あたりの値段がキロでいうとキロ450円ぐらいだと全然採算取れない。「愛媛甘とろ豚」はキロ650円の固定価格です。だから、他の豚の供給量が少なくなっても、値が上がってもその値段で買える、下がっても買える。だから仕入れ先もコストがしっかりしてるし、品質がいいんで「愛媛甘とろ豚」採用したいというのがどんどん増えてきてますね。キロ650円を保証すれば農家は十分採算が合うということが分かったんで、今どんどん全体的に増えてきてる状態、ユニクロ戦法と今言った、高品質戦略両仕立てで行きたいなと思ってます。

5. 松山周辺から砥部への公共交通機関の充実について

私は伊予から砥部まで自転車で通っているが、砥部には、とべ動物園とか、こどもの城、ゆとり公園など、遊ぶところがたくさんある。たくさんあるので若い人たちももっと来て遊んでもらえたらいいなと思っているが、バスなどの公共交通機関が少なく、松山からのバスしかない。もっと伊予の人とか松前の人とかにも来てほしいので、交通機関をもっと増やしてもらえたらなと思うがどうか。

【知事】

とべ動物園っていうのは全国で結構人気の動物園になってまして、2015年のトリップアドバイザーでのランキングで5位、意外に高いんですよ。中四国では年間50万人ぐらい来られるんで、入り込み客数も中四国では2015年時点で1位。今でもさらに魅力を増そうということで、今までは動物園の関係者がこんなことやって来ってくれるんじゃないかっていう範疇で動物園の魅力を発信していたんだけど、今年は全く別の人に知恵を借りる予定なんです。それは、イベントの集客のプロフェッショナル、動物園というこのコンテンツを生かして人を引き付けるためにはどういう角度から事業をしたらいいかっていう、全く動物とは無縁の人に人を集めるプロの視点でとべ動物園の魅力を探ってもらおうかなという事業を今年行う予定になります。またさらにバージョンアップしているんですね。こどもの城では、去年から子ども芸術祭ってのを始めました。取りあえず地図をつくって、高校生中学生小学生も対象にして、あそこをこどもの芸術作品でどんどん埋めていきたいなと、そういう空間として個性を出していくっていうことを模索してます。

いろいろコンテンツがあるんですけども、まあ今言った、確かにそういう便利があったらいいんですよ。ただ、いいんだけど、やっぱりその交通ビジネスってのは民間の会社がやるんで、

どっちかっていうと今言ったように、我々は施設の方へ行ってこういうことの仕掛けをしますよ、これだけ情報発信したら人は振り向きますよ、来たい人増えますよっていうのが見えたら、じゃあここに路線出してもお客さん確保できますねっていうバス会社の動きにつながってくると思う。こちらをやることによって路線のその延長で路線の充実につなげていきたいなと思いますんで、まずこっちをやらせてもらってそこから考えていきましょう。そのときには、じゃあどこからどこの路線をやったらきっと1番、何て言うのかな、人の乗車が効果的かなんていう提案が高校生の分析で提案されたりしたら面白い。

6. 中山栗等を全国で勝負できる特産物にする方法について

僕は、中山栗をはじめとする特産物を発展させたいなと思っている。中予は、南予に比べて特産物の面では少し劣る部分があるように思う。しかし自然豊かな中山町には、中山栗をはじめとする全国でも戦えるような特産物が多々あるように思う。それでも現状は発展させるためのスタートラインにも立ててないような気がする。勝負するためには、何をして、どんなことが必要になるのか御意見をいただきたい。

【知事】

愛媛県は栗も盛んでして、中山と大洲が中心になりますけども、栗の生産量は全国3位になります。特に中山はね、いろんな大きなものから、いろんなものをつくっていると思うんですが、もう少したつと、あそこに高速道路のスマートインターチェンジができるんで、ここを起爆剤として今から準備しとくっていう必要があるわけです。もう1つは栗を生かした集客ってどういうアイデアがあるか、実はこの件に関しては伊予市の市長には数年前から言ってるんだけどなかなか実行されないのどうなっているのかなあと今気になっている、また聞いてみようと思ってますけども、僕が提案したのが、せっかく栗の産地なんだから、今若い人は何に向くかという食。その中でもなかんずくスイーツ。スイーツに栗は欠かせないですね。例えば某有名パティシエ、全国に鎧塚さんとか、そういう方に協力依頼をして、有名パティシエ監修の。栗といえばスイーツでモンブランっていうのがあるんだけど、中山モンブランっていうのをつくってもらう。by有名パティシエ。このモンブランはこの場所まで来ないと絶対に食べさせないと、外には出さない、いうのをいっちゃつくっちゃって、それを情報発信して道後温泉にいっぱい来るから、その関係でコネクして、引っ張り込む。ということ考えると、ともかく中山まで行かないとあの人が監修した特別な栗の産地でそこでしかつくってないあのスイーツが食べられない、このブランドを磨いていけば面白いねっていうアイデアを数年前に言ってるんだけど、どう？

（参加者）

ほんとに。そうですね、（スマート）インターチェンジをつくられるっていうお話もお聞きしていたので、僕も賛成で、あったほうがいいと思います。

【知事】

じゃあ今度地元で突き上げて、やってくださいよって、ぜひ。

《補足説明》〔中予地方局〕

県では、中山栗等、特産物を活用した商品開発は、集客に有効と考えています。このため、商品化に必要となる中山栗を長期に渡り安定的に供給するため、関係団体と連携して産地力の向上を図る方策を検討しています。

また、伊予市でも、スマートインターチェンジ設置を地域活性化を図るチャンスと捉え、人を呼び込む目玉商品の必要性を認識しており、地元の方々と栗を活用したスイーツ等の開発を行う事業を検討しており、県としても市の取組みをバックアップしてまいります。

7. 自転車専用道路の整備について

道路についての話をさせていただきたい。城南高校では自転車で通学する生徒がたくさんいるが、地域によって自転車専用道路が少なく、登校時混雑してしまう場所がある。そこで、より自転車専用道路を増やしていただきたいと思っている。そうすれば歩行者と自転車の利用者の区切りがしっかりとして事故ももっと減ると思う。土地のことを考えるとちょっと難しいかなと思うが、知事はどうお考えか。

【知事】

確かに、日本で国土自体が小っちゃくて、土地の値段が高いので、なかなか車道と歩道と自転車道、理想論でいえばそれぞれが分離されてあるのがいいっていうのは誰しもが認めているところなんだけど、限られたお金の中でやりくりしなければならぬんで、しかも既存の幅の中で自転車道を新たにつくるってことは、場合によっては歩道を小っちゃくするか、あるいは車道2車線犠牲にするか。あるいは場所によっては例えば東高の前っていうのは今自転車道があるんだけど、あれはセットバックって家全部後ろにずらしてもらおうとか、えらいお金がかかるわけ。だから一気にそれはなかなか難しいということは間違いないと思います。ただこれは実はプランニングするのは県というよりは市、町が自転車の活用をどういうふうにやっていくか基本的な考え方をまずまとめる必要があるんで、例えば松山市だったら松山市が自転車についてどこまでやっていくか、しかも計画的にやっていくかっていう財政のお金の問題もありますから、そのまづ基本計画をどうするかっていうところからやっていく必要があると思いますね。今ある程度のことは進んできていると思うんだけど、例えば永木町にそういう自転車道できたり、まあ少しずつ増えてはきているような気がします。ただ一気にできることではないんで、それは少し時間がかかるかなというふうに思います。

そこで例えば県の場合、サイクリングコースということについて言えば、これは県道が多いので、何やってるかって言うと1つの試みとして、サイクリングコースについては、ブルーのラインを一気に引くという事業をやりました。時折ブルーのラインが引いてたの気付いたことある？

（参加者）

ちょっと思い当たりません。

【知事】

あのね、全県どこでもあります。そのブルーのラインっていうのはいろんな意味があって、1つはサイクリング愛好家が訪れたときにお勧めの道、そのブルーのラインに沿って行けば目的地に道に迷うことなく、観光スポットも外すことなく到達ができますよという意味。もう1つはトラックや乗用車の運転手さんへのメッセージ。ブルーのラインが見えたら、サイクリングで走っている人が多いですよ。だからスピードには十分気を付けてくださいねっていうメッセージになってます。そういう趣旨で、ブルーラインっていうのはまず1つの県としてのやったところ。もう1つは今、部分的に歩道がちょっと広すぎるので、ちょっと歩道小っちゃくても良さそうねっていう場所については、自転車専用道路つくれるかどうかっていうのも、県道については少しずつやり始めていますので、それぞれの立場でやっていくことがあるのかなというふうに思ってます。

ただもう1つは、台湾の台北市という所であった自転車施策っていうのには、すごく関心があって、これは市単位でしかできないんだけど、何をやったかって言うと、シェアバイスクル、自転車のシェアをね、町ぐるみで、オレンジ色の自転車が町中にいっぱい置いてあるわけ。そこに1つ1つ、がちっと盗難されないような駐輪スペースがあって、ほんとに安い値段で、何かカードを買うと、それさえ出せば最初の30分は無料で1時間が100円でそんな感じなんですね。スマホで見ると、台北市内、百何十カ所ステーションがある。今このステーションに何台バイ

クがありますけど、こっち側のステーションには何台空きスペースがありますよ。こっからあそこ行きたいんだったらパーッと探してその自転車パッと飛び乗って、行きたいとこまで走って、空いてる場所で降ろしてまた止めれば、もう1日中自転車でどンドン移動ができる仕組みを、町のシステムとしてつくり上げた。こういうやり方ってすごくいいなあと、いうふうに思ってるんで。まあ、どうするか分かんない。実はこの前、松山市長には情報提供して、台北にも行ってもらったんだけど、それを松山市がどう取り入れるかは、これは僕の仕事じゃないんで分かんないんだけど、やればいいのにやればいいのには思ってます。

8. 清掃ボランティア活動の相談窓口について

町のごみ対策について質問する。私は、部活動を引退後、金曜日に学校周辺とロープウェー街と銀天街と大街道のごみ拾いをしている。ぱっと見、松山はとてもきれいであるが、歩いてみるとタバコや広告や弁当のごみなどが落ちている。雑草も気になって抜いている。

少し前に友人が、ボランティアで清掃活動を計画し、先生に教えていただいた市のボランティア課に連絡したところ、別のボランティア施設に連絡するように言われ、そこでも県の担当に連絡するように言われた。結果的に、自分たちですることなのでどこにも許可を取る必要はないだろうということで実行したが、いざやってみると、ごみの回収などは自分たちだけでは難しいことが分かり、クリーンセンターでいろいろとアドバイスをいただいたそうである。

そこで、高校生が、自発的にそういった活動をしようと思ったときに、相談できる場所があるのか。あると、私たちのように部活動を引退後自分たちでボランティア活動を計画したいと思ったときに便利だと思う。

【知事】

ごみの問題っていうのは、根本的に言うと人の意識の問題に行き着くんですよ。例えば道は誰のものですか。って言われれば何と答えます。

(参加者)

みんなのものです。

【知事】

みんなのものだね。そのみんなのものの中に、みんなの中に自分は入っていますか。

(参加者)

入ってます。

【知事】

入ってる。みんながそう思ったら、ごみ捨てるはずがないんだよ。だって自分のものだったら、例えば自分の自宅がありました。玄関の前にごみ捨てる？捨てないよね。自分のところには絶対捨てないんだよ。みんなのものと言い切っている人が、自分も入ってると言えば本来なら捨てるはずがないのに平然と捨てるのは、いかに世の中にはみんなのものと思いつつも、自分がその中に入っていないと考える人が多いか、ここはもうほんとに根本的な問題で、早い時期からそんな感覚を小学校か中学校のときから学ぶようになれば、随分変わるんじゃないかなと個人的にはずっと感じていたんですね。ちょっと話はずれましたけども、そういうふうな人間の意識の問題というのも考えていかないとごみ捨てるはなくならないのかなというふうには思います。

じゃあ現実問題どう対処するかっていうと、ほんとにそういう心ある人たちがボランティア等々で活動してくれるのも1つの大きな力だし、まだ行政のメンバーが清掃活動を公の立場で行っても大事かもしれないです。僕松山市のときに1回こういう制度をつくったことがあるんだけど、マイロード制度っていうのをつくったことがあるんです。今も多分やってると思うんですけども、この道、この通りは清掃について、このエリアの人たちが請け負います。学校でもいいね。

この道についてはぜひ私たちがこれからも代々請け負いますと、清掃活動を。その特典として、その道の名前を自由に付けてくださいと。マイロードという制度つくったというわけなんですけれども、もしそれが、今後とも続くような仕組みであるならば、それやってみたらどうかな、松商ロードみたいなね。そんなマイロード制度っていうのがあるっていうのはちょっと頭の中に入れてもらえたらと思います。

そこで相談窓口は、はい県どこですか？

(事務局)

男女参画・県民協働課。

【知事】

ちなみにさっき、よく言うたらい回しっていうのがあるんだけどね。ここに聞いたらあっち行ってください。ここに聞いたらあっち行ってください。最後、県に行ってください。県に来たの？

(参加者)

多分県にも。

【知事】

県はたらい回ししたの？県がまたどっか行けって言ったらちょっと僕は逆に教えてほしい。それは大変なことなんで。

(参加者)

多分、県の方に連絡したときにちゃんと協力しますというか、ちゃんと聞いてもらえなかったみたいに言ってたんで。

【知事】

聞いてもらえなかった気がするんですか。ぜひ、どこの部署か教えてください。僕が代わりに謝ります。

《補足説明》〔県民環境部〕

経緯について、松山市等、県に連絡があるまでに対応した外部機関での状況も含めて追跡調査したところ、県の対応に不備はありませんでしたが、高校生が関係機関へ照会した折に、問い合わせの真意を十分に伝えきれていなかった可能性があるため、発言者へ報告、及び、県としての今後の対応留意点並びに関係機関相談窓口案内を、在籍高校のボランティア担当教諭を通じ、文書にてお知らせしました。

併せて、課内ボランティア相談窓口担当職員全員で事例を共有し、今後、相談者の真意を汲み取るべく、より一層丁寧な対応に努めることを申し合わせました。

9. 観光客増加対策や学生の観光PRの取組機会の増加対策について

私は今後、愛媛県の観光客は減少するのではないかと考えている。そこで松山市、愛媛県をPRするために、高校生のInstagramや、ツイッターなどのネットワークが使えるのではないかと考えている。

今の愛媛県の現状として、松山市の観光客、平成27年は3年連続で増加し580万人を突破、観光客の増加が見られ、秋に開催される国体に向けても非常にいい盛り上がりを感じられるが、国体終了後には道後温泉の改修工事も始まり、観光客の約5人に1人は訪れる、松山市、愛媛県を代表する観光地となっていることから、観光客の減少要因になることは間違いないと思われる。

観光PRに対し、どのような取組みがあるのかを調べてみたところ、国際短編映画祭観光映像大賞を受賞した「マツとヤンマとモブリさん」という、松山の素晴らしい部分がぎゅっと詰め込まれた観光PR動画が見つかった。しかし、高校生の友人はその動画を知らない人がほ

とんどで、高校生目線での観光PRが実現できていないのが現状なのだと感じた。

そこで、私は高校生のネットワークを観光PRに活用できないかと考えた。学生はいろいろな人とつながる可能性が高い世代だと思う。例えば私たち高校生は地元で進学する人もいれば県外に進学したり、就職したりする人もいる。地元で生活した私たちが自分たちの周辺に愛媛や松山の素晴らしい面を、ツイッターやインスタグラムで共感し、情報発信するだけで興味を持ってくれたり、将来的に愛媛に旅行に来ようと思ってくれる人を増やす可能性が大きいと考えている。

今後の観光客増加への対策や学生の観光PRへの取組みの機会の増加について、どのようにお考えか。

【知事】

そうですね、あの実は大学生はかなり参加をしてくれていて、例えばみきゃんプロジェクトなんかも大学生かなり参加してくれてる。大学生の視点でみきゃんを皆さんのユーチューブ使ったり、いろんな仕掛けをやって来てます。それから、インGRESを活用した観光戦略も考えていて、インGRESっていうのはグーグルの位置情報システムと、クイズポイント加算を組み合わせたものなんだけど、ある意味ではポケモンみたいな、ロールプレイングなんだけど、あれも多分そういう、移動して、観光ルートたどっていくと、画面上にクイズが出て、その答えの正解に従ってポイントが付与される。そうするとそのポイントの額に応じてそのエリア内にある契約店で割引サービスが受けられるとか、こういう遊びとデジタルとアナログを組み合わせたような仕組みを考えて、どうやったらいいかなと、大学生に参加してもらって、今実際にやってもらってるとこなんだけどね。大学までは結構自由な時間が多いんで、比較的やりやすいんだけど、みんな結構忙しいやろ高校生は。なかなかそこまで時間が借りられるかなっていうのがあるので、学業に支障をきたしたらまたえらいことになるから、その範囲の中でね、参加できるんだっただけひ扉をたたいて提案をしていただけたらなと。うちはいつでもこんな提案で我々協力しますよっていうのをアイデア募集してるので、もし何かいい提案があれば、もちろんできるものとはできないものがあるんだけど、そういうのぶつけてもらうのも手かなというふうに思いますんで、ぜひよろしく願いいたします。

もう1つは最初の問いかけであったんだけど、観光客どうなるか、これは分からない。正直いうと日本の国自体がどうするのかとか東京オリンピックが終わった後に何が残ってるのか全然見えないですね。万博とかその程度の話で済まないんだけど、東京オリンピックまでは、まあ何だかんだ言って、わあと盛り上がって投資が行われて、ウエルカムジャパンで外国人観光客増やそうという流れが、ばあっといくと良いかもしれない。でも今日本の国ってとてつもない借金抱えちゃって、オリンピックのあとそれだけの財政回復力があるのかとか、オリンピックの次にみんながまとまるような何か目標というのがあるのかどうか、ここが提示できないと。オリンピックまでとオリンピック後環境ががらっと変わりますよね。

その中で愛媛県は生き残っていかないといけないので、今のところ愛媛県というのは観光客の推移については、比較的順調にきているんだけど、それはあくまでも国内がメインになります。国外ということについて言うと、まだまだこれからやらなきゃいけないことがたくさんあって、来週僕は韓国に行くんだけど、休業状態になってるソウル線の再就航の最後の交渉に行きます。それをだんだんに増やしていかなくちゃいけないと思います。ただこれは航空会社の状況がどんどん変わってきてるのね。例えば、今松山空港から東京に行こうとする場合、日本の航空会社ではANAとJALと正規料金、1カ月前払いで行きますとどんどん安くなるんだけど、正規料金、びっくりする値段がついてる。片道、3万7千円。東京羽田までの。3万7千円。往復で行ったら7万4千円。ホテル代払ったらどうなっちゃうか。そんなの普通行かないから、パックの旅行

を取って行くんだよね。ところが、4年前に目を付けたのがLCC、ローコストキャリア。サービスを削って削ってともかく安くする航空会社。これが松山空港に来てるジェットスターとピーチ航空。その2つ。ジェットスターどうなってるか、羽田ではありません。成田行きなんです。千葉なんです。でも料金は1カ月前から予約が開始される。1カ月前の段階では誰もお客さんがいない。最初の1人目が埋まると、残り99になるとすれば、値段が次は上がる。2つ埋まると3人目はまた上がる。4人目はまた上がる。傾斜配分で料金変わっていく。最後の1人が2万7千円。ということはANA、JALに比べると1万円安い。じゃあ1人目は一体いくらかというところと四国にちなんで、4,590円。1カ月前に最初に予約すると4,590円。その代わり全部手続きも自分でやらないといけないのと、機内サービスは何もないのと、何か欲しいんだったら、全部いちいちお金払って。だから中身が違う。でも安いほうがいいっていうんで、そういう人たちも求めていたんで、今両方とも好調です。海外のLCCなるものはどんどん出てきて、だから今度今ソウル交渉しようと思ってるのはLCC。ひょっとしたら海外便ですら、最初の1カ月前に最初の1人目が申し込んだら5、6千円。というようなところもアクセスをいろんな所、まあ限界があるけどもターゲット絞って、両方売り込めるようなところへも開拓していく最中なんです。ローコストキャリアの場合は、単にビジネス客を運ぶんじゃないくて、ネットを使った旅行商品というやつ。ということは若い人がターゲット。ということは若い人がまた愛媛に戻るといったら、今松山だけでも観光コンテンツでは温泉とお城、あと何がある？むしろ若い人が望んでいるのは、体験型のコンテンツ。例えばしまなみ海道でサイクリング体験、あるいは砥部焼の絵付け体験とか、あるいは南のほうへ行けば松野町のキャニオニング体験とか、佐田岬の海の上でのサイクリング体験とかいろいろなのがある。そういうメニューをどんどん出して、若い人が飛び付くような、さっきの石鎚登山もコンテンツにある。あんな鎖を登って行ける場所ないんだって。そんなタイミングを待ってますといったら、それと今の値ごろ感のある旅行代金ならば。今そういったところでも交渉を来週ソウル行ってやってきます。そんなこともやってるのでぜひ知ってください。

《補足説明》〔経済労働部〕

運休となっていたソウル線の早期再開に向け、韓国最大のLCCであるチェジュ航空の社長に対し、8月16日に、松山市長、今治市長、内子町長とともに「チーム愛媛」でトップセールスを行った結果、11月2日(木)からの就航が決定しました。

松山ーソウル線の再開後約1ヶ月で延べ3,000人もの韓国人旅行者が同路線を利用するなど、高いインバウンド効果が出ていることから、今後も、韓国における本県の更なる認知度向上と誘客促進、県内周遊促進に取り組むこととしています。

10. 高校生の進路選択に資する愛媛県の情報発信について

IターンUターンに関連することについて、私は高校3年生で、将来の進路について考える時期であるが、私は県外に行こうかと考えていたのが最近、県内で進学しようかと考えが変わった。そのとき愛媛県内でどんな魅力があるのか考えたことがあり、県内生が愛媛に残りたいと思うようなアピールとか、県外生が愛媛に来たいと思うようなアピールを、学生に対して愛媛県はこんなことをしてるんだというホームページを発見した。ホームページには大学生に対しては、県が就職支援みたいなものをしてるところを見つけたが、高校生の今の時期でも進学とか就職とかいろいろ考えると思うので、大学生だけじゃなくて、高校生にもそういう知る機会みたいな、将来につながる機会が設けられれば良いなと思っている。

それで県内にどういういいところがあるのかなと考えた矢先に、加計学園について前知事が国会で答弁されたり、新聞で聞かれたときに答えられたりって形で私たちは加計学園に対する

愛媛県の態度を知ることができるが、それに対して愛媛県は全国的にそんなに有名な県ではなく、加計学園みたいなあまり良くないイメージで有名になってほしくないなと思っている。伊方の原発について、ホームページで知事の意見を拝見したが、伊方の原発で、住んでらっしゃる御高齢の方の避難路は、もし原発で事故があった際には、船で渡って九州に行かれるっていう話でそれはほんと現実的じゃないなと思っているが、でも知事が愛媛県としてその原発に対する国の基準よりも厳しい基準を設けられているっていうのも新聞で拝見した。

そういうことも含めて、私たちが進学を考えたときに、愛媛県にはどんなところがあってという県の立場からの主張ではなく、県知事の意見を目にできる機会が増えたらと思う。

【知事】

情報発信っていうのはすごく難しく、例えば愛媛県、市や町もそうなんだけどこの分野でこういうことやってますっていうには、一生懸命報告はするような仕組みになってますね。例えば媒体を工夫していて、1番身近にあるのは広報紙、紙面での配布。これは全戸配布してます。でも残念ながら配布しても興味のある人は見るけど興味がない人は素通りしちゃう。配布したから情報発信できたかっていったら大間違いで、大方の人たちはこの紙面を通じて情報は届けてるんだけど、この媒体では無理って人たちははどうするか根本的に考えないといけない。そこでスマホ活用したり、インターネット活用したり、ホームページ活用したり、いろんなありとあらゆる手段で出し続けるという努力は積み重ねなければならないと思います。記者会見っていうのは非常に頻繁にやっておりまして、とにかく愛媛県は隠し事はしないと、どんどん積極的に、色んな基本があって、その中の1つに失敗しても報告する行政であると。1つの姿勢なんですけど、なんかマスコミからこんなことあったでしょ、って言われる前に、こっちからこうしちゃいました、こういうのがありましたっていいなさい。そうしたら1回は謝る。でもそれが成長につながる。なぜならば、怒られて叱られて謝った。やることは発信して謝る。次にすぐ手立てを打つ。3番目に分析をして二度と同じことが起こらないようなシステムをつくる。ここまできちんとやればむしろ進化だから、失敗を早く報告するのは大事なだっていうそういう意識付けを今県庁全体に広めています。そういう意味でこれからも情報発信については僕自身も今まで同様にですね、どんどん考えることをやっていきたいと思います。

愛媛県のいいところっていうのはほんとにいっぱいあって、例えばじゃあこの何というか、僕はね、最後には戻ってきてほしいんですけど、1回外出してみるのも経験、いかに愛媛県の松山や、南予や東予がいいところかっていうのは僕は外出してたから、前は商社にいたときはほんとに東京、中東アジアなどへも行って、特に東京時代はブラック企業って言われている、もろにそのブラック企業の労働者であって、月の残業時間が260時間ぐらいありましたから、毎日会社出るのが午前1時ぐらいです。次から次と周辺は病院送りになってくし、それでも仕事楽しかったからガンガンやれた時代だったですね。でも通勤ラッシュ、仕事は楽しかったけど、混雑が激しく、通勤したり帰ったりを繰り返して土日になると死んだように眠っていて、そういう生活が人間らしくないなというふうに思えたのも事実です。でも28歳で帰って来たときはギャップに苦しみました。スピードがゆったりしてるし、何かあの一步間違えたら、何千万円損してしまうような、ぎりぎりの商売やってたんで、その緊張感なくなっちゃった。でも、最初は逆にそれに物足りなさを、帰った途端に感じてたんだけど、今は逆。もう2度とあれはいやだと。もう東京に仕事で行かざるを得ないときも3日が限界。もう早く帰りたい。いうふうに素直に今思ってる。

何が違うかという具体的なことはそうね、住みやすさですよ。例えば松山だけでいうと47都道府県の県庁所在地で物価が2番目に安いんです。意外でしょ。住居費、全国1位だそうです。通勤時間、全国で2番目に短いんです。それから、災害の心配がない。全然ないとは言わない、少ない。海の幸山の幸の幸全部ある。瀬戸内海、宇和海、伊予灘。とれる魚、全部違うわけですよ。今

治行ったら鯛がとれる、瀬戸内の松山近海には小魚の宝庫でホゴやメバルやギゾや、いろんな小魚とれる。ちょっと南に行ったら今度はフグの産地です。このフグが下関に行って、下関のフグとして売られる。で、佐田岬半島の先に行ったら関アジ関サバと同じアジがとれる海がある。そのうちタイだったら宇和海、ここは養殖の宝庫。タイやハマチ、高級魚マハタ、クエやマグロどんどん生産が上がってる。魚だけでも愛媛県いくらでもあるかもしれない。かんきつもそうだし、こんな食べ物に恵まれすぎるとこあるんかいなと正直言って思います。例えば郷土料理がないというでしょう、郷土料理、どっかの地域に行ったらこれが有名だとか。愛媛県でなかなか見当たらない、なぜか。食材が豊富すぎる、とれたものが全部新鮮でおいしいから。郷土料理ってのは食材がないところが、少しでもおいしいものにしようと工夫を重ねてつくり上げてあげてる。愛媛県では素材そのものが良すぎてそんなものつくる必要ないぐらいいいものとれちゃうんですが、とても比べるところではない。今言った生活環境と、それから食の豊富さ、住んでみたら、外と比べたら、もう。

もう1つは意外と知られてないのが産業が力強い。これは松山だけに居ても分からないんだけど、四国中央市と紙パルプ産業の集積地。ここにはさっき言っていた大王製紙、ユニ・チャーム、レジ袋の全国シェア7割持ってる、スケールのでかい企業群がダアーと並んでる、この企業が全部世界トップ。新居浜に行くと、さっき言った住友関連の企業が集積してて、その下には、それらを支える高い技術力を持った中小企業がいっぱいいる。例えばこの町には大きな歯車をつくってる会社があるんだけど、減速機って言います。この減速機の歯車を何に使うかって言うと建設機械のユンボの根っこにパワーを出すための歯車、ここの会社が世界の減速機の3割のシェア。そんな会社があったり、その隣には、東京スカイツリーのサッシを全部つくった会社が愛媛県にあります。そんな会社。エンド製品をつくってないから知られてないだけ。西条市には液晶偏光フィルムとか、フィルターとかをつくってるこれも液晶偏光フィルムも世界シェア6割持ってるクラレという会社のマザー工場。今治行ったら造船日本一。タオル日本一。松山の周辺行くとボイラーの日本一、世界を相手にしてる三浦工業。次が次世代の素材を使用して最先端のつくってるのが松前町の東レと空港の周辺の帝人なんです。炭素繊維というのをつくってるんだけど、何に使うかという今は飛行機。ボーイング787という最新鋭の機体に使われています。それから自転車の最高級品、全部そこでつくられた炭素繊維を使ってる。帝人はこれから自動車にその素材を提供していくと思ってるんだけど、企業すごいんですよ。

工業生産高でいうと、四国中央市が9万人の人口で6,500億円、年間。新居浜市が人口12万人で7,500ぐらい。西条市が11万人で8,500。今治市が16万人で1兆500億、ちなみに松山市は52万人だけど工業生産高で上げると4,500。で、例出して悪いんだけど、高知県は全県1県で6千万。ということは愛媛県工業生産高、数字だけでも。そういう企業群たくさんある。だからいっくらでもチャンスはある。でもそれ知らないから、いざ就職のときは東京とか大阪ばかり出ちゃう。

でも実はお膝元に世界と勝負している会社がいっぱいあるということのを早い段階で知れば、卒業するときに県下全域でどうしようかっていう選択肢が生まれてくるんじゃないかなということで、今、中学生が多感な青年期にそういうどんな企業があるかっていうことを、先生も込みで知ってくださいという運動をしています。今年から中学生を対象にそういう仕事を体験する事業をしました。名前をちょっと考えたんだけど、何かね職場体験事業というとなんか、かっこいいの、「えひめジョブチャレンジU-15」って、こういうねネーミングをつけて、さあ、自分たちどんな企業知ってるっていうようなことをやっています。

(参加者)

愛媛県民としては愛媛県が1位とか2位とかそういうのすごいうれしいので、愛媛県1位だからそれがヒットするみたいなそうになったらうれしいなと思います。

11. 愛媛マラソンに次ぐスイーツマラソンの実施について

先ほど知事の話にもあったが、愛媛マラソンが全国で人気ということで、東温市で先日スイーツマラソンというマラソンがあった。果物に恵まれた県内で、愛媛マラソンに次ぐイベントとしてスイーツマラソンをしていくというのはどうか。

【知事】

ああいいですね、あれ出た？何kmぐらい走る？

（参加者）

出てないです。それは調べてないです。

【知事】

そういう遊び心のあるマラソン大会がこれから多分生まれてくると思うんですね。世界で最も人気があって、同時に、世界で最も完走率の低いマラソン大会、フランスにあるんですよ。ボルドーマラソン。フランスのボルドーっていうのは何が有名かって言うとワインの産地。なぜ完走率が低いかって言うと給水場の所に今年とれたワインがある。みんなゴールにたどり着くまでに酔っぱらって途中でリタイアしちゃう。それでも最新のワインが飲めるって世界中から人が集まってくる。もちろん完走率ももちろん低いんだけど、そういう、日本では絶対認められない、これは。でも最初それで愛媛県には43の日本酒の蔵元があるから、それできないかなって言ったら絶対やめてくれって言われて、大変な問題になっちゃうから諦めたんだけど、スイーツっていうのも1つの切り口で、地域地域で工夫を凝らした仕掛けっていうのはその土地の特色、産物なんかを活かしているいろんなアイデアが出てくると思うんで、さっきのモンブランなんかでもそうなんだけど、そういう発想、スイーツマラソンだけじゃなくて何でも、野菜マラソンもできるし、ここではニンジンジュースが出てくる次行ったらキュウリのジュースが、そういうのもやったら面白いし、工夫を凝らした高校生ならではのそれぞれの町々で東温市なら東温市の特色を分析して出してもらったらというふうに思います。

12. 県の新しい魅力を県内外に情報発信する方法について

現在上浮穴高校ではせっけんやアロマオイルを利用して久万高原町の新しい魅力を発信していくことを考えている。愛媛県では先日ニュースで拝見したが、飛鳥乃湯泉やえひめ国体などの魅力が日々生まれている。そこで、今後生まれる新しい魅力を県外の人にどのように伝えていきたいと考えているか。

【知事】

そうですね、県の場合は、それぞれの市、町のまちづくりの中で生まれてきた特色ある機能を集約して出しているというやり方と、それから県のほうで自転車など全県でやって盛り上げるっていう仕掛けと、両方やらないといけないんですが、情報発信についていえばもうさっき言ったようになります。どこの層を狙ってる、どこに焦点を絞るかによってアプローチの仕方が全然変わってくるんで、物をコンテンツや商品によって、それは変えていく必要があるというふうに思ってます。

久万高原というと、いろいろ面白いこといっぱいあって、例えばヒルクライムは実は県のほうからやってみないって仕掛けたもの、対象はしまなみ海道と同じ、サイクリストですね。ところが自転車を分析すると、しまなみ海道っていうのは、初心者でも誰しものが、自分の体力に応じて楽しく走るファンライドと言われるジャンルを通じたサイクリングのコースがあるんですが、もう1つ別のことする、ヒルクライム。どんなことやるのって言ったら山を登る、世の中には変わった人がたくさんいます。過酷であればあるほど人は集まります。これで西日本最高峰にチャレ

ンジっていうのをうたい文句にしてる。石鎚を登るというヒルクライムをどうかって言ったら向こうもやろうって言って、6年前に第1回大会は300人ぐらいでやった記憶があるんだけど、今はもう800人を超える参加申込みがあり、こちらも募集と同時に1日で全部埋まってしまうという人気イベントに育ってます。僕は、個人的に言うとあまりの苦しさにパスしたいんだけど今年も行くつもりです。到達感は相当あるんだけど、とにかくしんどいの。ずっと上りで上見て風景楽しもうと思ったらもう坂道が目に入ってきて心が折れちゃう。だから上見ない。ひたすらペダル、下だけ見て根性根性根性根性って2時間ぐらいずっと。苦しさ極まりないんだけど、その分到達したときはやり切ったっていう感動は待ってる素晴らしいイベントになったと思います。

その他に久万高原っていうのはやっぱり高原ならではのブランド力っていうのもっと磨いていかないって思っていて、例えば久万高原っていうのは意外と知られてないのがなぜ知られてないかって言うと、県外に高く売る、トマト、久万高原のトマト、久万高原のピーマン、これは京都、大阪で爆発的に人気があります。農業やってる人でもしっかりとした収益を上げます。そういう高原のブランド力っていうのは久万ならではのものかなと思って、そこにもう1つ久万の魅力としては、かつて林業は全国1位だったのでその中心地なんで、その木材を磨いていくということが、久万の将来のためには大事だと思います。その情報発信をですね、これからもどんどんやっていきたいと思います。

13. 松山周辺の電車路線の延伸等について

愛媛県の電車について、自分なりに考えて3つの問題点があると思います、それをまとめた。

1つ目は伊予鉄の松山市駅とJR松山駅が離れていて、アクセスが悪いこと。この2つの駅は松山からさまざまところに行く重要な駅であるが、距離が徒歩で22分も離れていて、初めて利用する人、特に観光客などはとても迷っていると聞いたので、例えば、この2つの駅を合併し、東京駅のようなターミナルにすれば利便性が増すのではないかな。

2つ目に電車が空港まで通ってないこと。年間松山空港の利用者は約290万人となっており、多くの観光客が利用している。空港からの移動手段は、バス、タクシーがあるが、交通渋滞などで移動時間に余裕がなく、またタクシーはとてもお金がかかる。そこで電車を空港まで通すと愛媛県民も空港まで行きやすくなるのではないかな。問題となる線路を引く土地は河川敷の国有地を使えば大幅に費用が削減できると思う。また、電車の代わりにモノレールを新たな交通手段として運用するのもいいと思う。

3つ目は松山市の南部の交通渋滞。松山市南部は人口5万8千人の石井地区をはじめ、松山のベッドタウンでもある砥部町の方々が通勤通学で国道33号線を利用している。そのため、朝や夕方は常に交通渋滞が発生し、バスは日々目的地への到着時間が変わる状況であり、雨や雪などの日には時間のずれがさらにひどくなる。そして土日には高速道路へのアクセスのため、車の流れがさらに悪くなっている。これらを改善するため、昭和40年頃まで森松まで通っていた電車を復活させ、砥部町まで線を延ばすのはどうか。

【知事】

まずあの鉄道については、基本的にはこれ民間の会社が運営してるので、県が線路を引くとかそういうのはちょっとできないんですよね。ここは経営母体が何かするのは押さえておく必要があると思います。その上でJRの鉄道はJR四国が運営し、松山市駅前では伊予鉄道が運営するっていう話になります。まあそんなに路線は競合してないんだけど、やっぱり鉄道会社同士いろんな思惑があって、その連携がうまくいってないです。その結果としてJRはJRで、市駅は市駅で、別々の空間でして、コラボするという発想はこれは欠けているんだなというふうに思っ

てます。そこで今JR駅前開発が今進み始めているんだけど、あと数年も経てばなると思います。というのはJRは鉄道高架事業というのを進めていて、今は古いイメージがあるんだけど、ずっと松前のほうから上がってきて、高架をして上に駅ができるようになります。そのときにこれを計画したときに、伊予鉄にJRとの駅とのコラボレーションをもう少し考えてほしいということで、提案をしたのが、JRが今こう高架になると今、堀之内のほうから入ってきてJRの手前でフジグランの曲がってるでしょ。路線が。これを直進してくれと、せっかく鉄道の高架ができるんなら、下が空いてるんで、それを真っ直ぐ直進して取りあえず松山総合公園の所まで線路つくってください、という交渉をしました。伊予鉄もOKと言って、その工事も並行して行われます。そうするとJRの高架の下に、真下に伊予鉄の駅ができますから、ここで鉄道のアクセスとしてはJR駅前と松山市駅前が格段に便利になるとそういうルートができると思います。何でそれさっき松山総合公園が出たかって言うと、実はこの先、山沿いに行くと松山空港がある。だから僕の時代ではとてもじゃないけど多分できないかもしれないけども、次の世代のまちづくりで、空港まで延伸させるような布石を打っておきたかったんです。今そのルートがどうやって実現できるかってのは検討はしています。

今1つの提案としてモノレールという話がありましたけども、モノレールも実は相当議論したんだけど、結論から言うと個性がないということでやめました。じゃあ個性は何に付けるかっていったら、世界のどこにもない風景、それは空港降りたら目の前に坊っちゃん列車が止まってる。坊っちゃん列車でガタゴトガタゴト走りながら町中に入って来たら、これはもう世界に類を見ないアクセス空間ができる。モノレールっていったらどこの町にもある。だから坊っちゃん列車で入ってくっていうことができたら面白いね。最悪路面電車でもいいんだけど、その空間ができれば観光そのものずばりが観光のコンテンツになる発想で相当議論しました。だから今すぐについていうことではないけれども、空港への延伸っていうのは、伊予鉄道と国と県と松山市で、研究会つくって今研究している段階に入ってます。

それから森松線もこれ実は伊予鉄がかつて持ってたんですけども、僕はそのときの経営者にとやかく言わないけど、あのとき何で止めちゃったのかなと正直言って個人的な思いはあります。というのは南が結構発展して、とべ動物園もそうだし南に向かって渋滞が広まってきてるんで、まああれが残ってたら全然まちづくりの展開違うなっていうのはつくづく感じておりますね。ただこれはね、民間鉄道会社が一度廃止して線路取っ払ったのを復活させるだけの体力が今とてもそこまでの体力はないと思って、そこを伊予鉄に求めてもちょっと厳しいかな、じゃあ考えるしかないかなというふうに思います。そのときに例えば、これは全く自分の個人の考えなんだけど、国道の真ん中に中央分離帯がある。あそこに柱建てて、それこそモノレールで動物園まで行けたら1番安上がりかなという気はするけど、まあちょっとこれは正式にはまだ検討していないので、ただ単に想像の世界。そんなことができる余地はないのかなというのはどこかしら頭の中にあります。ただ今実際それをするかっていうと、さっきの坊っちゃん列車の研究をまず先にするのが現状です。